

産婦人科（生殖医療）

1. 概要

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が猛威を振るった1年であったが、生殖医療に対する当院の治療指針は、何ら変更する必要もなく的確に対応できた。第1に、生殖周産期医療は地域に根ざしたものであるべきという理想を実現すべく、地元東三河に在住または生活拠点を置く患者さんのみを治療対象とする10年来の方針は、地域感染拡大時でも安心して受診してもらえる環境の維持に寄与した。当院は国内有数規模の感染症指定病院でもあり、必要十分で無駄のない感染症対策が行われていたが、日常診療や体外受精説明会でも感染症や感染対策についての患者教育を徹底して行った。第2に、何人の子どもを望み、最後の子どもを西暦何年・何歳で出産するかを目標を明確にし、そこから逆算して実際の治療プランを立てるファミリープランニングという当院の掲げる方式は、感染拡大期には採卵実施後に新鮮胚移植を行わず胚（受精卵）を凍結する全胚凍結も治療選択できるように対応して乗り切った。第3に、「コロナ禍でも、できる取り組みから行おう」という合言葉で、当院不妊症患者に多い子宮内膜症や子宮筋腫などの合併症に対する薬物治療や、感染症重症化で注目された亜鉛欠乏治療（不妊症との関連が注目されている）、そもそも不妊症に対しても健康長寿にも有効な食事、運動、睡眠、心理的ストレスの生活習慣4つのテーマにご夫婦でしっかり取り組んでもらい、難しい不妊症の患者さんたちに素晴らしい結果をもたらすことができた。第4に、当院の表看板でもある体外受精などの生殖補助医療（ART）におけるタイムラプス胚培養も14年目となり、2018、19年に導入した人工知能搭載タイプの新機種が、すべての胚（受精卵）に客観的5段階で評価を与えてくれるようになったので、たとえばこれだけ凍結できれば2人の子どもを持てる可能性は95%以上というように、感染拡大下でも安心感が得られるようになった。

おそらく当院で生殖医療を受ければ、新型コロナウイルス感染症で如何なる状況になっても、的確な指導が受けられ時間を無駄にせず子を持ちたいという強い覚悟を持ち続けられることを実感していただけたと確信する。

（部長 安藤 寿夫）

2. 活動報告

(1) 生殖補助医療

(件)

2020年	刺激周期数	体外受精数	内、顕微授精	新鮮胚移植	妊娠	融解胚移植	妊娠
1月	13	12	7	7	2	14	3
2月	13	13	4	6	2	11	2
3月	8	6	2	2	0	7	1
4月	18	13	9	3	1	7	0
5月	8	8	5	1	0	7	2
6月	15	14	5	8	1	8	3
7月	10	8	5	2	1	11	4
8月	11	6	3	2	0	8	3
9月	8	6	4	3	0	13	4
10月	16	12	6	10	4	11	4
11月	17	16	9	9	2	4	0
12月	6	4	4	3	1	11	3
計	143	118	63	56	14	112	29
妊娠率					25.0%		25.9%

単胚移植率100%。多胎は0例。異所性妊娠1例。

生殖医療の成績データは、症例背景など医療機関により異なる要素が多いことから、他の医療機関との単純な比較をすべきではないと付記することが、米国では義務付けられています。

(2) 不妊症妊娠例（カッコ内は多胎妊娠例）

区分	件数(件)
体外受精-新鮮胚移植	15(0)
融解胚移植	30(0)
排卵誘発	2(0)
人工授精	1(0)
習慣流産	3(0)
タイミング法・その他	14(0)
計(重複例を除く)	60(0)

生殖医療の成績データは、症例背景など医療機関により異なる要素が多いことから、他の医療機関との単純な比較をすべきではないと付記することが、米国では義務付けられています。

学会発表（医局）

（産婦人科（生殖医療））

1	Hisao Ando.Evaluation of the embryos derived from mild/post-operative endometriosis using a time-lapse incubator combined with automated software analysis. Japan Society of Endometriosis and Taiwan Endometriosis Society Joint Session.第41回日本エンドメトリオーシス学会学術講演会 日台ジョイントセッション .下関市.2020/1/18
---	---

論文・著書（医局）

（産婦人科（生殖医療））

1	安藤 寿夫.卵巣過剰刺激症候群.今日の治療指針2020年度版. 医学書院.. 2020; 1341-1343.
---	---